[5] 支部だより

北 海 道 支 部

幹事（H1, *H3*）山　田　菊　子

北海道支部は2020年度に続き2021年度も支部会合を開くことを断念しました．私にとってはこの10数年の初夏の風物詩であり，学年や所属先，立場にかかわらずフラットにお付き合いができる楽しい機会ですので寂しい限りです．また，唯一の公式な行事でもありますので，支部は事実上，活動停止に追い込まれています．しかし，実施されなかったからこそ同窓会の意義や，これからの同窓会のあり方のヒントが見えてきたように感じています．

まず同窓会の意義について．京土会という共通のバックグラウンドのもと，初対面でも親しく話せる関係を築けるのが意義の一つです．初対面の方と会う機会が激減した昨年春以降，オンラインの会合で知り合った若い方々から，後日，相談を持ちかけられることが，何度もありました．細い糸を頼りとする方々にとっては，同窓会の意義は依然として変わりません．であれば，今後も想定される感染症や災害などの機会でも，同窓会は活動を継続することが必要です．

二つ目はこれからのあり方へのヒントです．会員のみなさまと同様に，私もオンラインでの会議，講義，ワークショップ，はたまた気軽なおしゃべりの会に関わることが多くありました．リアルでの会合とは異なる準備や運営が必要となり，負担も小さくはありません．しかしこれまでに出席できなかった方々の参加を得ることができました．椿の会（京土会女性支部）では，学生との交流会をオンラインで開催したことにより，国内外のさまざまな場所から，小さなお子さんも一緒の参加がありました．2020年4月には「オンラインの会議は無理です」言っていた国の地方機関のご担当も，今ではむしろオンラインが既定になりました．常識は変わる！

では，これからの北海道支部はどうあるべきか．人数の多くない支部だからこその人間関係は，若い方々にも，そして私たちにも必要です．しかしお目にかかってお酒を飲む形態はもはや前提ではありません．同窓会本来の意義を見つめ直した活動が求められています．オンラインを利用する活動もその選択肢の一つです．支部の面積がとても広く，厳しい冬に対峙する北海道支部にとっては，オンラインの会合はむしろ活動の幅を広げることにつながる可能性があります．

これからの支部の活動の意義やあり方をみなさんと考えるのも，私の課題となりそうです．

東 北 支 部

（H14, *H16*）高　木　猛　志

新型コロナ下ではありますが，東京オリンピック，パラリンピックが開催されました．東北でも，復興五輪としての取組みで，福島県でソフトボール，野球，宮城県でサッカーが行われました．宮城県の宮城スタジアムでは，有観客での試合が行われ，福島県のあづま球場では，無観客とはなったものの，オリンピック全競技のトップを飾る試合としてソフトボールが実施され，最終的には日本代表が金メダルを見事獲得するという結果になりました．身近な施設での試合開催や最終的に素晴らしい結果に繋がったことは，非常に励みになる明るいニュースになってくれました．

他にも今年，東北では，NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」の舞台として，宮城県登米市が選ばれました．地元では，規模を制限しながらも，撮影施設の公開や特設ブースの設置をしており，地道な取組みを行っています．実際に訪れてみると，観光客もいらっしゃるものの混雑はなく，ゆっくり観賞することができました．

街を歩くと，飲食店の閉店を目にする等，新型コロナの影響は感じるものの，前述のような明るい要素や在宅関連の消費増により，経済の動向としては，緩やかに持ち直しているとされているのも，少し実感できる状態です．

私が関わっているエネルギー業界では，現在，脱炭素化の流れを受け，再生可能エネルギーの導入が活発になっております．東北地方については，北海道，九州と並んで，洋上風力の有望地点となる等，自然エネルギー資源を豊富に有しています．東日本大震災からの復興工事が一段落しましたが，今後，風力の開発を中心に東北地方の土木業界が活性化されることが期待されます．

以上，東北の現状をお知らせしましたが，東北支部の活動としては，例年行っている新年会を見合わせた後，新型コロナ明けに懇親会等の機会を画策してはいるものの，活動ができていない状態です．今後は，ZOOM等を使った遠隔での懇親会も含めて活動を考えていきます．

東 京 支 部

代表幹事（S57, *S59*）安　部　吉　生

東京支部の代表幹事を拝命しております，昭和57年卒業の安部でございます．本年の総会で大石支部長の代理として，支部報告をさせて頂きました．

東京支部の2021年度支部役員は，

支部長　　大石　久和（43）
　　全日本建設技術協会会長，国土学総合研究所所長，オリエンタルコンサルタンツ最高顧問
代表幹事(仮)　安部　吉生（57）
　　大成建設 常務執行役員土木営業本部副本部長
常任幹事(仮)　岩住　知一（61）
　　鹿島建設 土木管理本部プロジェクト推進部プロジェクト推進部長
常任幹事(仮)　杉山　和久（62）
　　大林組 理事土木本部担任副本部長
常任幹事　　吉岡　大蔵（H7）
　　国土交通省水管理・国土保全局　治水課流域減災推進室長

でございます．まだ総会のご承認を経ていないため，安部以下3名は「仮」とさせて頂いております．

本年は，2021年度支部総会が6月7日㈪，学士会館にて開催される予定でしたが，昨年と同じく中止せざるをえなくなりました．本学からご来賓の先生方，参議院議員の足立敏之先生，衆議院議員の井林たつのり先生，陣内孝雄先輩をお迎えする予定でしたが，残念な結果となりました．

幹事会としては，コロナの終息がみえれば，秋以降の総会開催も念頭に置いております．また，ウェブ会議の開催も検討いたしましたが，皆様へのシステム環境の整備がまだ不十分と判断し，今回は見送っております．

さて，近年，災害の多発から土木の重要性が見直されております．2011年の東日本大震災はもとより，15年の鬼怒川氾濫，16年の熊本地震，17年の九州北部豪雨，18年の太田川氾濫，19年の信濃川氾濫，20年の球磨川氾濫と，毎年のように災害対応が続いております．国土強靭化の実現に向けて，官民を問わず，京都大学の土木，地球環境工学科の卒業生がご活躍されるなか，その多くが在籍されている東京支部の総会は，毎回150名を超える方々にご出席を賜り，会の盛会とともに支部の収支が改善された結果，若い方々には無料で出席頂けるようになりました．幹事団としてはうれしいかぎりでございます．

もう一つの話題といたしまして，小職が京土会東京支部代表として出席しております，京都大学同窓会の連絡会では，3年前から全学の同窓会行事として，卒業生による講演会を開催しております．2018年は当時の山極総長，2019年は元外務省の田中均先生，2020年はノーベル賞を受賞された本庶先生をお招きした講演会には，京土会からも多数のご参加を賜りました．

全学の同窓会組織の中でも，医学部の芝蘭会と京土会の組織力はずば抜けていると感じます．支部ごとの定期的な総会開催，毎年の名簿の更新と内容の充実は他の学部，学科に比べて秀でており，コロナのような状況になるほど，様々な連絡やご案内にも大きな力となります．本学事務局のご努力とご尽力に改めて，心より御礼申し上げます．

最後になりましたが，京土会会員の皆様の益々のご活躍，ご発展を祈念いたしまして，挨拶に代えさせて頂きます．ありがとうございました．

千 葉 支 部

（H4, *H6*）辰　見　夕　一

千葉支部では，例年3月に千葉県に在住もしくは勤務され

る方を対象に懇親会を開催させて頂いておりますが，コロナ禍の影響で昨年に引き続き今年も懇親会の開催を残念ながら見送らせて頂きました．この2年足らずでオンラインで会議や面談などの仕事で利用させて頂く機会が急速に広がりました．一方，懇親会についてはオンラインで開催されるケースもございますが，さすがに対面のような皆でお酒を酌み交わして美味しい食事を頂きながらの歓談や盛り上がりは得難く限界を感じさせられます．東京オリンピックの開催を挟んで千葉でも1日あたりの新規感染者数が1000人を超えるなど急増してしまいましたがワクチン接種も急速に進んでいることがせめてもの救いです．一日も早くコロナの流行が収まって正常な生活を取り戻し，また皆で集まれる機会を持ちたいと心より願うばかりです．

さて，今回は2019年より千葉支部の幹事を務めて頂いております妙中真治氏に近況紹介を兼ねて千葉県に関するお話をご紹介させて頂きます．

（H8, *H10*）妙　中　真　治

コロナウイルスの影響もあり近場を散策する機会が増えました．現在の会社に入社し，千葉に移り住みましたが，ちょうど，その頃に東京湾アクアラインが開通しました．その後，20年超が経過した今年，初めてアクアラインの裏側を覗くというツアーに参加してきました．なかなか興味深いものでしたので少しご紹介をしたいと思います．

海底トンネルの裏側は，トンネルの構造や避難経路の確保，メンテナンス施設など学ぶことが多いツアーでした．裏側へ入るためには4～5個のドアを通り抜ける必要がありますが，その度に気圧が変化していき，火災延焼を抑える工夫もされているのも勉強になりました．ご説明は一般の方々にもわかりやすく，小中学生の方々にも理解できるように上手く準備されていると感心しました．

一方，表側にはトンネルと橋梁を結ぶ「海ほたる」の4階に「うみめがねアクアラインシアター」というのがあります．ここではアクアライン建設にかかる経緯や建設過程における難しさなどを紹介してくれています．これが非常に興味深い内容です．“トンネルがあれば天候に関係なく往来が出来ますよ～”というような説明を想定しておりましたが，全く異なります．東京湾に海上都市を構築する丹下健三氏による東京計画1960（丹下構想）や東京湾の大規模な埋め立てによる新東京建設（加納構想），「ネオ・トウキョウ・プラン」などの説明から始まるものとなります．海上に都市をつくる構想から，東京湾の高潮対策としての役割を担い，横断道路としての重要性から現在の形に至ったようです．ホームページを参照しますと“楽しく知る・専門情報”とありますが，かなり深い専門知識に関する情報がちりばめられており，製作者の趣味が入っているのではないかと勘ぐる内容です．初めて知る情報に頷き，メモに筆を走らせておりました．あとになって調べてみると上述の構想はそれぞれ刺激的であり，私のような年齢の技術者からみると逆に新鮮で新しく見えました．

今年，千葉県知事が森田健作氏から熊谷俊人氏に代わりました．アクアラインの通行料は開通当初4千円でしたが，森田氏の公約により現在は800円まで引き下がり，通行量は約1万台/日だったものが4万台/日にまで増加しています．横断道路により千葉側も活気が戻ってきています．最近では，リモートワークによる地方移住の影響もあるのか，南房総地域への転入が増えているようです．またキャンプブームから，あちこちにグランピング施設も増加しており小学校の跡地もうまく活用されています．

コロナによる自粛で千葉支部においても懇親会は中断中ですが，皆さまと色々と会話をさせて頂き，これまでの歴史や最近の変化など，雑談ができる日常を楽しみにしております．制約が多い日々ですが，ちょっとしたことに興味をもつことで色々と刺激をもらえるものだと再認識する日々です．房総グルメランチを目当てに東京湾アクラインツアーを提案してきた妻には本当に感謝しています．

新 潟 支 部

（H20, *H22*）谷　上　正　晃

令和2年の4月に初めて新潟に参りました．京土会での報告は初めてとなります．どうぞよろしくお願いいたします．

私が在住している新潟市は，川（信濃川）・港（新潟港）・海岸（新潟港海岸）が一体となって非常に美しい町並みを形成しております．また，空港（新潟空港）も町中心部（新潟駅）から比較的近隣に位置しており，関西（伊丹空港）への交通アクセスもよく，新幹線は新潟駅から東京駅までを2時間半で結んでおり，首都圏への交通アクセスも非常に良いと感じております．

私自身は，港や空港に携わる仕事をしているのですが，北陸地域はアジアへ日本海を挟んで近接しており，地理的優位性を有しております．また，首都圏・中京圏・関西圏ともに同程度の距離にあるといった地理的特性を持ちます．港の観点で申しますと，北陸地域では，東アジア・東南アジアとの輸出入が増加しておりますが，東アジア・東南アジアへの直接の海上航路がございません．そのため，北陸から東アジア・東南アジアへ貨物を海上輸送するとなると，釜山へ一度輸送し，釜山で船を積み替えて，東アジア・東南アジアへ輸送するという非効率な輸送となります．このようなこともあり，そもそも北陸地域の港湾を使わず，太平洋側へ陸送し，太平洋側から輸送するという輸送も生じております．こういった課題に対して，北陸地域での東アジア・東南アジアの航路の創設というものを目指しておりますが，そのためには何よりも北陸の港湾で取り扱う貨物量が重要となっております．一つの港湾だけで集める貨物には限界もあるため，日本海側の港湾全体として貨物を集め，日本海側港湾で連携した航路ネットワークの創設を目指すことが重要と考えております．いずれにしても，北陸

には素晴らしい港があるため，是非，北陸の港を活用した効率的な海上輸送網が効率できれば良いなと思っております．

少し，仕事に関係する話となってしまいましたが，新潟はお米やお酒が美味しいのはもちろんのこと，ラーメンが非常に美味しく，5大ラーメンというものがあります．私は5大全てを制覇できていないのですが，味付けも様々で非常に素晴らしいものがあると感じております．是非，新潟へお立寄りの際は，日本酒を飲んだ後に，ラーメンで締めていただければと思います．

最後となりますが，京土会の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げ，新潟支部の近況報告とさせていただきます．

東 海 支 部

（H7, *H9*）澤 木 夕紀彦

東海支部は，主に東海4県（岐阜，静岡，愛知，三重）に勤務地や住所のある同窓生を対象とした同窓会です．2020年度以降，新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」といいます．）の影響により総会の開催を見合わせております．全学部を対象とする愛知京大会においては，前大学総長の山極寿一氏，ノーベル化学賞（2019）受賞者の吉野彰氏をお招きしての総会，あるいはオンライン方式の講演会が検討されましたが，残念ながら昨年度に引き続きコロナの影響により中止されました．

山極氏は著書「スマホを捨てたい子どもたち」（2020年発行）の中で，情報通信技術が発達した時代であっても，人が対面して五感を生かしたコミュニケーションをとり身体で共感し合うことは，人間が信頼関係をつくり未来を幸福なものとするために必要である旨を，霊長類研究の成果を踏まえ示していらっしゃいます．コロナの影響により，オンラインや電子メールの意思疎通が増えている状況ですが，人が直接会うコミュニケーション（同窓会もその一つですが）の大切さを再認識しているところです．

東海地方におけるインフラの整備状況についてご紹介いたします．道路ネットワークは，名古屋第二環状自動車道の最後の未開通区間であった名古屋西JCT･飛島JCT間（約12km）が2021年5月に開通しました．これにより，2013年度に全線開通した名古屋都市高速道路を含め，1966年度に登場した「マルサ計画」（注：道路網の形状が㊥に見えることに由来する通称）が完結し名古屋市周辺の高速道路ネットワークが完成しました．同時に，中部圏の道路料金について，ETC車は起終点間の最短距離を基本とする料金へ改定されるなどの見直しがなされました．三重・岐阜・愛知にまたがり愛知西部を大きく取り囲む東海環状自動車道（延長約153km）は，2019年度までに100km超の区間が開通しており，全線開通（用地取得等が順調な場合，2026年度の見通し）に向け，事業が進んでいます．

新東名高速道路は全線開通（2023年度予定）に向け工事が進んでおり，2021年4月に静岡の新御殿場IC・御殿場JCT間（約7km）が開通しました．同時に東富士五湖道路と新東名高速道路を結ぶ自動車専用道路（約5km）が開通しています．8月には，富士山西側で静岡県と山梨県を結ぶ中部横断自動車道において山梨県内の約13kmが開通し，4月の道路開通と合わせ富士山を囲む高規格道路ネットワークが形成されました．この地域では「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」が2013年，世界遺産に登録されており，観光の更なる活性化が期待されます．富士山東部の裾野市では，トヨタ自動車が工場跡地（約70万m^2）に，自動運転，パーソナルモビリティ，ロボット，AI技術などをはじめとする様々な領域の新技術を実証していく都市「Woven City」の建設に，2021年2月着工しています．将来的には2千人以上の住民が暮らす，ヒト中心の街づくりの実証プロジェクトになるということです．

新名神高速道路においても全線開通（2023年度予定）に向け，滋賀県大津JCTより西側の2区間約35kmで工事が進んでいます．

愛知県長久手市にある愛・地球博記念公園（2005年国際博覧会の会場）では，アニメ映画で有名なスタジオジブリ作品の世界観が表現される「ジブリパーク」の整備が進んでおり，2022年秋には一部開業する予定です．愛知の魅力もより高まることを期待します．

コロナの感染状況は2021年9月の時点で第5波の中にあり，全国で19の区域に緊急事態宣言が発出され，8の区域にまん延防止等重点措置が適用されている状況ですが，東海地方においては2021年に入り，岐阜・愛知で1/14から2/28まで，次は愛知で5/12から6/20まで，その次は静岡で8/20から，岐阜・愛知・三重で8/27から，それぞれ9/30まで発出されている状況です．東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は1年延期し開催されましたが，三重で予定された国民体育大会（三重とこわか国体），岐阜で予定された全国健康福祉祭（ねんりんピック岐阜2021）は，残念ながらコロナの状況を受けて中止となりました．

自然災害では，豪雨による被害が全国で毎年発生している状況ですが，2021年は東海地方にも大きな被害が起きています．7月の大雨では熱海市で土石流が発生し20人を超える尊い命が失われ，8月の大雨では西日本で大雨特別警報が発表されるなど，各地で河川の増水・氾濫，低地の浸水の被害が発生しました．木曽川では，8月の大雨で犬山城近くの観測所で戦後2番目の水位を観測し，岐阜県美濃加茂市などで市街地が浸水するなど東海地方では記録的な大雨となりました．木曽川では岐阜県八百津町の丸山ダム（昭和31年完成）を洪水調節機能の強化等を目的として約20m嵩上げする，新丸山ダムの建設工事が進捗中であり，早い完成が待たれます．

新丸山ダム・建設の様子（2021年8月）

吉野彰氏は著書「リチウムイオン電池が未来を拓く」(2016年発行）で，新規製品・新規事業の開発を考えるにあたり，過去に起こったことを時系列で把握し，現在に至るまでの因果関係を総括したうえで，この先に起こることを洞察するツール（氏は「超現代史」と命名）の使用を勧めていらっしゃいます．コロナを含む感染症について振り返ると，SARS（重症急性呼吸器症候群）や新型インフルエンザに対する強い注意喚起がなされたのは，それほど遠い昔ではない，21世紀以降のことでした．大雨は，地球温暖化の影響もあって長期的な増加傾向にあるとされ，数十年に一度の降水量が予想される場合に発表される大雨特別警報が毎年のように発表されている状況です．また，発生すれば東海地方にも大きな被害を及ぼすことが予想される南海トラフ地震が30年以内に発生する確率は70～80％と計算されています．感染症の流行，大雨，地震などについて，絞った範囲で発生地域や発生日を予測するのは難しいことですが，社会基盤の整備など様々な事業や，個人の生活を考えていくうえで，これまで起きた様々な事象を踏まえて，将来のことを洞察していくことが大切なのだと思います．

コロナが早く終息し，同窓会など人々の交流が再び活発になることを願いまして，報告を終わります．

長 野 支 部

幹事（S61）青　木　謙　通

長野支部は，周囲を東京，新潟，東海，北陸の4つの支部に囲まれ，長野県に在住，在勤する会員により構成される会員数10名程度の小規模な支部です．

さて，2020年夏に開催予定だった東京オリンピックが，コロナ感染症の影響もあり，本年に1年間延期をされ開催されました．長野県では，遡ること約四半世紀前，1998年（平成10年）に開催された長野冬季オリンピックを契機に，北陸新幹線や上信越道・長野道などの高速交通網が暫定的に整備をされました．約5年前，2015年（平成27年）3月には北陸新幹線が長野から金沢まで延伸され，延伸区間内で県内唯一である飯山駅が開業をしました．また，リニア中央新幹線は，2027年の開業を目標に，建設工事が進められています．県南部の飯田市には，新幹線駅が設置される予定で，開業後を見据えたまちづくりの取り組みが活発となり，地域の発展に期待が寄せられています．

一方，2年前の2019年10月には，東日本台風により長野市の穂保地区で堤防より越水，結果的に決壊し，千曲川から集落に水が押し寄せる衝撃的な映像が放映されました．全国より復興のボランテイア，募金などのご支援をいただき，復旧・復興への力強い支援となりました．現在は，国土交通省を主体として千曲川緊急治水プロジェクトを展開し，さらに安全な暮らしの確保を目指しています．

支部の活動についてです．本年は，コロナ感染症の影響を考慮し，全員が一同に会することを避け，ウエブを活用してのオンライン総会を会員8名参加のもと開催をしました．写真は，総会の一場面であり，向かって左側が清水支部長(59)です．総会では，京都大学より須﨑教授にオンラインでご参加をいただき，専科の近況報告を中心にご講演をいただきました．会員全員が直接会っての開催ではありませんでしたが，総会を2年ぶりに開催することができ，懇談にも花が咲きました．一方で，オンライン会議の扱いに幹事が慣れておらず，円滑な進行ができない場面もあり，関係者にはご迷惑をおかけしてしまいました．申し訳ございません．今後も支部会員の意見を尊重しつつ，多様な活動を模索したいと考えております．

紙面を借りて恐縮ですが，長野県に在勤，在住する京土会員で支部活動のご案内をお届けできていない方は，お手数ですが下記までご一報をお願いいたします．

結びに，京土会並びに会員の皆様方のご活躍とご発展を祈念し，長野支部の近況報告といたします．

連絡先（勤務先）
〒380-8570　長野市南長野幅下692-2
長野県 会計局 契約・検査課　青木 謙通
電話　026－235－7359
Mail: aoki-kanemichi@pref.nagano.lg.jp

北 陸 支 部

（H4）市　森　友　明

北陸支部は，富山県，石川県，福井県の3県にまたがる地域であり，2021年6月現在で97名の会員を有しています．

1. 北陸支部第34回支部総会

北陸支部総会は，例年夏頃に開催していましたが，新型コロナウイルス感染状況により一旦延期となりました．年に1回の交流の場ということもありますので，幹部の皆様との協議の結果，感染対策を確実に講じ，2020年12月5日㈯石川県金沢市の金沢茶屋にて開催いたしました．越県移動への配慮から，石川県の会員を中心とし，福井・富山から1名ずつ，計8名の会員にご参加いただきました．

はじめに金沢大学名誉教授 北浦 勝 支部長（S42, *S44*, **S47**）のご挨拶をいただき，その後，開催県を代表し，幹事 横江 斉様（S52）から開会のご挨拶をいただきました．総会では，各議案が順調に審議・承認されました．

2020年12月5日
総会でご挨拶される北浦 勝 支部長（S42, *S44*, **S47**）

2. 講演会，懇親会

総会に引続き講演会が行われ，「金沢の芸術文化とコロナ禍について」と題して公益財団法人・金沢市芸術創造財団 理事長 宮本 伸一様（S54）にご講演いただきました．

2020年12月5日
公益財団法人・金沢市芸術創造財団 理事長 宮本 伸一様（S54）

2020年12月5日　講演会の様子

現在勤務されている公益財団法人・金沢市芸術創造財団の取組みを通して，金沢の芸術文化の紹介，また，コロナ禍での対応についてお話いただきました．金沢芸術創造財団は，金沢市における芸術文化の創造に関する事業を企画実施し，市民に生涯にわたる芸術文化の土壌を醸成することにより，芸術文化の新興に寄与することを目的に設立されました．金沢の芸術文化の歴史は古く，加賀・能登・越中をおさめた前田家14代の各藩主は，戦いを避けて，芸術・文化を尊重し，文化政策に力を入れたことにより始まりました．コロナ禍においてその芸術文化の発信地である各施設では，休館や自主事業の延期・変更，ガイドラインに沿った運営方法の実施などの対応をどのように行ってきたのかご説明いただき，その中で，コロナ禍で考えたこととして，①施設管理について，②芸術文化活動は不要不急か？という点について，識者等の言葉を交え，お話いただきました．宮本様，誠にありがとうございました．

総会終了後，懇親会では，北浦 勝 支部長に開会のご挨拶，石川県を代表し，㈱地域みらい 代表取締役 北原 良彦 様（S55, *S57*）の乾杯で開宴となりました．宴会中は年に一度の顔合わせということで，恒例の各自の近況報告もあり，例年に比べ少人数である分，様々な話題で盛り上がりました．

最後に次回開催の富山県を代表し，㈱新日本コンサルタント 代表取締役社長 市森 友明（H4）の発声にて中締めとなりました．

3. おわりに

2015年3月に北陸新幹線が開業し6年余りが経過しました．東京とのアクセスは各段に向上しているだけに，いつも申し上げますが，2023年度敦賀延伸，大阪までの新幹線開通が待ち遠しい限りです．開通後は，小浜－京都は19分，福井－大阪は55分で結ばれ，福井は関西圏の通勤・通学範囲にも入りますし，観光客やU，J，Iターンも増加すると考えられます．コロナ後は，コロナ前の水準に人々の移動量が戻らないとの報道がされていますが，北陸圏に関しては上記の交通インフラの充実が好材料になりますので，特に京都大学がある関西圏との交流増加が望まれるところです．そのような時期を見据えて，我々北陸支部会員はそれぞれの立場で切磋琢磨していきたいと考えております．

最後になりますが，北陸支部は100名規模にまで会員数が増えました．石川県，富山県，福井県の3県に京都大学全体の同窓会も立ち上がり，京都大学関係者の交流も益々活性化しております．京土会の皆様，是非ともこの北陸に足をお運びいただければ幸いです．今後とも北陸支部をよろしくお願いいたします．

2020年12月5日　支部総会出席者の皆様

京 滋 支 部

支部長（S59, *S61*）田　中　照　彦

本年度支部長をおおせつかっております京都府商工労働観光部の田中です．

京滋支部の支部長･事務局は，京都大学，京都市，京都府，立命館大学の輪番で担当することが慣例となっておりますが，コロナ禍による支部活動の縮小等もあり，昨年度に引き続き今年度も，私ども京都府が受け持っております．

支部の行事につきましては，支部総会・懇親会とゴルフ大会を恒例活動としておりますが，昨年度は大変残念ながら支部総会・懇親会の開催を見送りました．一方で，ゴルフの方は，令和2年11月10日㈫，田辺カントリー倶楽部において，第41回石原杯争奪ゴルフ大会を不老会コンペと同時開催で実施することができました．

京滋支部は母校の地元でもあり，京都府・滋賀県に在住・勤務されている卒業生の方々を中心に，約1,300名の同窓生や恩師の先生方が会員として所属しています．今年度も，収束しない新型コロナウイルス感染症を受け，支部総会・懇親会については通例の11月開催をいったん見送り，改めての開催に向けタイミングを探っているところでございます．開催できる時期がまいりましたら，会員の皆様におかれましては，お近くの同級生・同窓生などお誘い合わせの上ご参加いただき，懇親の場として支部の行事をご活用いただければ幸いに存じます．

さて，京都府におきましては，観光入込客の減少など暗い話題の一方で，令和5年度を全線開通目標としている新名神高速道路が，6車線化事業もあわせて，まさに工事が佳境を迎えています．こうした状況の下，IC近くではアウトレットモールの建設が進むとともに，各所で大きな物流施設や工場の建設に向けた動きが盛んになっています．鉄道についても，JR奈良線の複線化・高速化第2期事業が令和5年春の開業を目指して着実に進み，各所で徐々に形が見えてきています．さらには北陸新幹線にかかる環境アセスメントの手続きが進むなど，まちの姿が大きく変化しようとしています．

また，京都府，滋賀県の広い範囲が含まれる淀川水系においては，8月に流域治水の推進等を盛り込んだ河川整備計画の変更が策定されるなど，防災・減災に向けた取組が積極的に推進されています．

さらに，関西文化学術研究都市の中核をなす，木津川市と相楽郡精華町にまたがる精華・西木津地区においては，国が推進するスマートシティのモデル事業に選ばれている「スマートけいはんなプロジェクト」が進められ，MaaSなどの移動手段に加え，AIデバイスによる健康管理支援など様々な実証実験が行われています．これは，何も遠い未来の話ではなく，まさに直面する社会で求められるものであり，ハード・ソフト両面から大きな変革の時期を迎えているところであります．こうした中，我々学生時代に土木を学んだ者として何ができるのか，これからも日々考えながら職務に従事してまいります．

以上，簡単ではございますが，京滋支部の近況報告とさせていただきます．

奈 良 支 部

（S59, *S61*）津風呂　雅　彦

奈良支部は昭和58年に発足し，奈良県内在住か県内に勤務されている方で構成されており，現在，約300名の方が会員となっています．支部の活動としては，県内の名所旧跡などをゆったりと巡り歩く「散策会」を年1回開催し，会員間の親睦を深めています．しかしながら，昨今の新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて，残念ではありますが，昨年度と今年度は開催を見合わせております．今後，新型コロナの状況を踏まえつつ，奈良支部の活動再開に向け，幹事会で検討を行いたいと考えているところです．

このため活動状況の報告ではありませんが，奈良県における直近の話題である，大規模広域防災拠点の整備に向けた取り組みについてご紹介することとします．

奈良県では10年前に発生した紀伊半島大水害で大きな被害を受け，近年も全国各地で地震や風水害などが相次いでいることを考えると，災害はいつどこで起こるか予測できない状況です．特に，南海トラフ地震は，今後30年以内に70～80%の確率で，マグニチュード8～9クラスの地震が発生するものと評価されています．このため，大規模災害が発生した時の備えとして，奈良県五條市に，救助要員の集結，救援物資の集積・配送などの機能を有する大規模な広域防災拠点の整備を進めるものです．

具体的には，広域防災拠点として，最新の大型輸送機と多数のヘリコプターが離発着できる2,000m級滑走路や消防などの応援部隊のベースキャンプ，航空搬送するための臨時医療施設（SCU）などを整備します．また，平常時においては，防災ヘリやドクターヘリ等の拠点，防災訓練や防災知識の普及啓発の場としての活用も目指します．令和3年6月には，「奈良県大規模広域防災拠点整備基本計画」を策定したところであり，現在，整備に向けて，国へ要望を行うとともに，用地買収に向けた地元説明会も開催しています．1県民としても早期整備を願っているところです．

奈良支部の活動については，現在，休止している状況ですが，新型コロナウイルスが早期の終息し，活動が再開されることを祈るばかりです．

最後になりましたが，京都大学土木会の益々のご発展と全国の同窓生の皆様のご健康とご活躍を祈念いたしております．

大 阪 支 部

（S60, *S62*）渡　瀬　　誠

［支部活動報告］

大阪支部の幹事を務めております，昭和60年卒大阪市建設局長の渡瀬です．大阪支部の近況についてご報告いたします．大阪支部は，大阪，奈良，和歌山の3府県に在住・在勤の会員約2,400名で構成されております．

昨年度は，他支部と同様に，新型コロナウイルス感染症の影響による社会情勢を鑑み，例年11月に開催している支部総会については，まことに残念ながら中止することとなりました．

なお，今年度の支部総会は，新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら，開催の可否について決定させていただきます．

［幹事交代・支部会員の異動］

今年度は，支部総会を中止したことを受けまして，幹事の交代はなく，昭和62年卒のJR西日本の春名様と私，渡瀬が引き続き幹事を務めさせていただきます．どうぞよろしくお願いいたします．

続きまして，支部会員の主な方々の昨年度総会以降の異動についてご報告いたします．大阪府では，昭和60年卒の盛岡様が危機管理監に，昭和63年卒の佐藤様が大阪港湾局理事に，平成元年卒の尾花様がまちづくり戦略監に就任されました．大阪市では，昭和63年卒の辰巳様がIR推進局理事に，平成元年卒の尾植様が経済戦略局理事に就任されました．

［大阪の近況報告］

続きまして，大阪の近況についてご報告いたします．昨年度は，新型コロナウイルス感染拡大の防止と，社会経済活動の維持の両立が求められる中，緊急事態宣言のもと，様々な工夫を行い苦労しながらなんとか必要な事業を進めた一年でした．現時点においても，新型コロナウイルス感染症の終息の見込みは不透明な状況ですが，一方で，次のビッグイベント，2025年大阪・関西万博については，昨年12月に国際博覧会推進本部の「基本方針」が閣議決定され，日本国際博覧会協会の「基本方針」が発表されるなど，官民一丸となって，開催に向けた準備が加速しています．地元大阪では，この万博の成功に寄与すべく，万博の円滑な開催を支え万博の効果を高めるために必要となる，会場周辺のインフラ整備や，会場へのアクセスの向上，来場者の安全性の向上，にぎわい・魅力の創出の取り組みを進めたいと考えています．

現在，万博会場となる夢洲周辺では，土地造成工事を今年度末の完了に向けて進めるとともに，昨年7月には北港テクノポート線の鉄道工事に着手，今年度は，夢洲内の観光外周道路やアクセスルートの橋梁拡張工事等に着手予定であり，万博来場者の輸送力増強のための道路や鉄道の整備が着実に進められております．

一方，会場外の内陸部でございます．来場者や運営関係者の安全かつ円滑な輸送のため，様々な来場形態に合わせた，多様なアクセスルートの確保に取り組んでいます．今年5月には，南海本線・高師浜線（高石市）連続立体交差事業で，上り線の高架切替が行われ13か所の踏切が除却され，踏切による交通渋滞の解消など交通の円滑化が図られております．高速道路では，淀川左岸線（2期）は，万博開催時に新大阪駅や大阪駅などから会場に向かうシャトルバスのアクセスルートとして利用できるように工事工程を前倒して整備を進めようとしているところでございます．鉄道では，北大阪急行の延伸区間が令和5年度の開業目標に向けて工事中であり，万博来場者の円滑な輸送に向けた取り組みが着実に進んでおります．

安心・安全に万博を開催できるよう地域の安全性を向上させるとりくみでは，まず，南海トラフ巨大地震に対する堤防・橋梁・鉄道の耐震対策を推進しております．特に，津波・浸水被害軽減のため，平成26年度からおおむね10年間で，海岸・河川堤防の耐震・液状化対策を進めています．

治水事業では，寝屋川北部地下河川で守口調節池が令和3年3月30日から供用したことにより，約6万m^3の貯留容量が増加，浸水被害を軽減できるエリアが約1,600ヘクタール拡大されたそうです．神崎川流域の治水安全度の向上のため，安威川ダムは今年度末の盛立完了をめざして工事が進められております．

万博来場者の交流拡大，にぎわい創出を図るため，新たな都市拠点の形成や魅力的な公共空間の創出に取り組んでいます．具体的には，うめきた2期区域では，みどりとイノベーションの融合拠点形成に向け，新駅設置，JR東海道線視線地下化などの基盤整備を推進するとともに，民間公募の開発事業者による開発に昨年秋に着手しました．今後，令和5年春の新駅開業，万博開催前の令和6年の先行まちびらきをめざし，基盤整備と民間開発を推進していきたいと思っています．

また，「うめきた」から「なんば駅前広場」までを歩行者中心の空間へと整備を進めていきます．中之島エリアでは，昨年度，市役所の東側でございますが，中之島通の歩行者空間整備が完了し，中之島公園との一体的な空間が創出され，歩行者の安全性・回遊性が向上しました．御堂筋については，令和2年10月に沿道のまちづくり団体3団体を道路協力団体に指定するとともに，令和3年2月に全国で初めて歩行者利便増進道路に指定しました．現在，南側から順次北に向かって工事を進めているところであり，万博開催時には，新橋から南側まで，来訪者が交流できる空間を生み出し，民間による道路空間の利活用を推進することで，新たなにぎわいを創出し，万博との相乗効果が期待できます．

万博開催後の大阪・関西の成長基盤となる「関西圏の環状高速道路ネットワークの形成」，「夢洲，新大阪，関西3空港への鉄道アクセスの強化」など，広域交通インフラ整備を進めています．先ほど申し上げました淀川左岸線（2期）とともに大阪都市再生環状道路の一区間をなす淀川左岸線延伸部が，令和13年度供用に向け事業中です．

鉄道ネットワークでは，うめきたとJR難波，南海新今宮を結ぶなにわ筋線が，令和2年8月に都市計画法に基づく事業認可を取得し，令和13年春の開業を目指して事業中です．

また，大阪府下では，大阪モノレールの延伸区間は，令和2年4月に国土交通大臣から工事施行許可を取得，令和11年の開業を目指して着実に進められております．さらに将来，リニア中央新幹線や北陸新幹線が新大阪につながることで，関西の鉄道ネットワークがさらに充実し，この2路線が乗り入れることにより広域交通の一大ハブ拠点となる新大阪駅周辺地域が関西・日本の発展を支える国際都市となることを期待しています．

これらの万博に向けた取り組みを進める一方，住民生活，社会経済活動を支える道路，橋梁，河川，岸壁，防潮堤，上下水道などの膨大な都市インフラ施設の機能確保に向け，維持管理を確実に進めているところでございます．

大阪支部といたしましては，産学官が集結・率先して，これら諸課題の解決に連携して取り組み，大阪，関西ひいては我が国の成長に一翼を担えるよう活動してまいる所存です．

京土会の皆様方におかれましては，一層のご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます．

神 戸 支 部

支部長（S58, *S60*）濱　　浩　二

神戸支部は，兵庫県下に在住・在勤の会員約1,100人で構成されています．例年，秋に神戸市内で，支部総会・現場見学会・講演会を開催し，総会には大学から先生にお越しいただき，交流を深めています．しかし，残念ながら昨年はコロナ禍により中止せざるを得ませんでした．

ここで，最近の神戸支部関係のインフラ整備等の状況をご紹介させていただきます．

道路関係では，地域発展の基盤となる基幹道路ネットワークの整備が進んでいます．大阪湾岸道路西伸部は，海上長大橋の基本構造の詳細検討が実施されるとともに，神戸市長田地区での開削トンネルや六甲アイランドの橋脚工事などが進んでいます．北近畿豊岡自動車道は，豊岡空港ICまでが開通し，残る区間で事業が進められています．中国横断自動車道姫路鳥取線の播磨自動車道は今年度開通の予定です．名神湾岸連絡線，山陰近畿自動車道の竹野道路が新規事業化されました．播磨臨海地域道路では，都市計画・環境影響評価手続きなど，事業化に向けた準備が着々と進んでいます．

港湾関係では，神戸港で国際競争力のある高規格コンテナターミナルの整備，阪神港におけるCONPASの試験運用などにより，さらなる機能強化・生産性向上を図り，コンテナ取扱量の回復に向けた取り組みが進んでいます．姫路港で旅客ターミナルエリアのリニューアルなどが推進されるとともに，広畑地区の－14m岸壁整備に新規着手されました．

空港関係では，神戸空港の国際化を含む港湾機能のあり方などが関西3空港懇談会で議論されています．

防災・減災関係では，治水対策として，河川対策アクションプログラムに基づき，令和10年度までに河川改修やダムの洪水調節機能の強化など，計画的に整備を進められています．引原ダムではダム再生に，千苅ダムでは利水者の協力のもと，利水容量の治水活用に取り組まれています．土砂災害対策として，第4次山地防災・土砂災害対策計画に基づき年間77箇所の砂防堰堤が整備されています．

下水道関係では，兵庫東流域下水汚泥広域処理場（尼崎市）で老朽化に伴う施設の更新にあたって，消化による汚泥のバイオマス化や固形燃料化等により下水汚泥エネルギーの有効利用に向けた整備が推進されています．処理人口約150万人，年間約83万m^3（濃縮汚泥）の汚泥を処理する全国最大級の施設となり，創出した固形燃料などにより，一般家庭約5,000世帯の年間エネルギーをまかなうことができま

す.

まちづくり関係では，三宮で，JR・私鉄・地下鉄駅やバス乗降場などの交通ターミナルを，民間ビル等の空間も活用して，移動しやすく，三宮全体をあたかも1つの駅に見立てた魅力的な空間にする都心三宮再整備が進められています．この計画の一翼を担う神戸三宮阪急ビルの建替工事が4月に完了・グランドオープンしました．さらに魅力的な都市空間が生まれつつある都心三宮再整備にご期待下さい.

以上が神戸支部をめぐるインフラ等の整備の現状です.

この会報が届く頃にはコロナのまん延状態が一息つき，以前のような活動を末永く続けていきたいと願っております.

最後に，支部会員の益々のご活躍と京土会の発展をお祈り申し上げるとともに，支部活動への引き続きのご協力をよろしくお願いいたします.

岡 山 支 部

幹事長（S61）長　尾　俊　彦

この原稿作成の時点で，10都道府県に出されていた新型コロナの緊急事態宣言は沖縄県を除き解除され，東京都での感染拡大を心配しながら，オリンピックの開会を迎えようとしております．岡山県でも，5月半ばに発令されていた緊急事態宣言が6月20日に解除され，県独自にリバウンド防止期間を設定し，再拡大防止に取り組んでいるところです．ピークでは一日に189人もの感染者が発生し，医療体制の崩壊も危惧される状況でしたが，高齢者を対象にスタートしたワクチン接種が若年層まで広がり，感染者の発生も落ち着きを見せてきております．新たな変異株には警戒しながらも，ようやく終息に向けた道筋が見えてきたと，期待を込めて思っております.

岡山県では，平成30年7月豪雨のため，倉敷市真備町を中心に大きな浸水被害が発生しました．国直轄事業で着実に進捗いただいている小田川の合流点付け替え事業をはじめ，「真備緊急治水対策プロジェクト」の推進に，多大なご支援を賜っておりますことに，深く感謝申し上げます.

また，高規格道路ネットワークの整備につきましても，本年3月に，岡山自動車道に残っていた暫定2車線区間の全てで4車線化に着手する決定をいただきました．先行して工事が進んでいた区間も，順次，供用が進んできております．また，地域高規格道路美作岡山道路では，未着手であった吉井IC～湯郷温泉IC間の事業化が決定し，未供用区間の全てで，本格的に事業を展開することになりました．発生が切迫している南海トラフ地震に対しては，発災時の広域的な支援や，医薬品，食料品等の輸送を確保するうえで，中国縦貫自動車道と山陽自動車道とを結ぶ，南北軸の強化が重要だと考えており，岡山自動車道の4車線化や美作岡山道路の整備を早期に終えられるよう，重点的に取り組んでいく考えです．さらに，県南の中心都市である岡山市や倉敷市などの都市機能を一層高めるため，国道2号などの渋滞対策にも，しっかりと取り組んでいく必要があります．さらに，ポストコロナを見据え，本県の経済に好循環をもたらすには，成長エンジンである水島臨海工業地帯を擁した水島港のさらなる機能強化も不可欠だと考えております．引き続き，皆様のご指導，ご支援を賜わりますよう，よろしくお願いいたします.

岡山支部の近況ですが，会員数は60～70人で推移しております．今年度の会員の異動につきましては，根津佳樹氏（*H27*）が国土交通省政策評価室から岡山国道事務所計画課長においでです．県関係では，前土木部長の樋之津和宏氏（*S59*）が，岡山県土地開発公社常務理事から（公財）岡山県建設技術センター理事長に異動され，引き続き，本県の土木行政へのご支援をいただけることになりました．また，土木部長の原田一郎氏（S62）は国土交通省に復帰され，日本下水道事業団理事に就任されました．前都市局長の中山基隆氏（S58）は県を勇退し，新たな活躍の場で力を発揮されることになりました.

岡山支部では，毎年，春に前期，秋に後期の，2回の懇親会を開催しております．残念ながら，昨年の2回と本年の前期については，新型コロナの影響で開催を断念することとなりましたが，ワクチンの接種も進んでおり，岡山支部の，笑顔の絶えない，和気あいあいの雰囲気をお伝えできる日も近いと思っております．懇親会には，県外からのご参加も大歓迎ですので，新型コロナの落ち着きました後には，是非，岡山に足をお運びいただければと存じます.

最後になりましたが，会員の皆様のますますのご活躍と京土会のご発展をお祈り申し上げますとともに，支部活動へのご支援をお願いし，岡山支部からの近況報告とさせていただきます.

広 島 支 部

（H27, *H29*）西　浦　　潤

広島支部の近況をご報告します.

支部会員数は現在93名で，異動・転出などにより，昨年より減少となりました.

今年度の支部総会及び懇親会は，昨年度同様，コロナ禍の情勢を考慮し開催を延期しております．総会も広島支部からはオンラインでの参加となり，年に一度，支部会員が一堂に会するメインイベントに直接参加できなかったことは非常に残念でなりません．全国で同様の状況かと思われますが，今後情勢が落ち着いて通常通り支部総会を開催できるようになることを切に願うばかりです.

なお，今年度の本部評議員，支部役員については，本部評議員を佛原肇様（S53），福原真爾様（S54），支部長を井上徳宣様（S52），副支部長を楠橋康広様（S58），幹事長を水島賢明様（S62），幹事を合田尚義様（H3），荻野正博様（H8），家島大輔様（H9），柴山慶行様（H21），橋本涼太様（H24）

に務めていただくことになっております.

さて，最近の広島県の状況でございますが，インフラ整備では，広域交流・連携基盤の強化に向けた大規模プロジェクトとして広島都市高速5号線事業や国道2号バイパス事業が進められており，来年度には高速5号線及び東広島・安芸バイパスが開通予定となっております．また，広島駅の再整備も進められており，駅ビルの建て替えや路面電車のルートの新設などによって，より利便性のある駅に生まれ変わろうとしております.

その他の状況といたしましては，サンフレッチェ広島に関連し，新サッカースタジアム整備の基本計画が策定されておりましたが，建設工事前の発掘調査によって，最大級規模の被ばく遺構が発見されたため，現在は作業を延期し，遺構の一部を別の場所に移し保存することも含めて検討されております.

最後に京土会会員皆様方の益々のご活躍と京土会のご発展をお祈りするとともに，支部活動へのご支援をお願いし近況報告となります.

山 口 支 部

幹事長（H9, *H11*, **H14**）中　島　伸一郎

山口支部は，山口県に住所あるいは勤務地のある同窓生を会員とし，現在約40名の会員からなっています．会員の転入出が比較的少なく，メンバーがほぼ固定していることもあって，会員どうしの親密な関係が築かれています．会員の約4分の1は定年退職された先輩方で，悠々自適の生活を送られたり，あるいは今も現場の第一線で活躍されたりしています．あとは県庁関係者が約4分の1，山口大学など教育機関が約4分の1，民間企業や研究所が約4分の1となっています．当支部では，コロナ前は1～2年に1回懇親会を開催しており，会員間の交流および情報交換の貴重な場となってきました.

さて，昨年よりコロナ禍が続き，大学も巣ごもり生活を強いられています．来年の今ごろは，以前の生活に戻っているだろうと，昨年はうっすらと思っていましたが，コロナ体制は，まだしばらく続きそうです．大学の授業もオンライン，学内外の会議もオンライン，国内学会も国際学会も軒並みオンライン．ある学生からは，「先生を画面越しのマスク姿でしか見たことがないので，生で会っても気づきませんでした．そんなに背が高かったんですね」と言われました．大学生活の大半をオンラインで過ごすことになる彼らは，大学に愛着を持てるのでしょうか．まずはこの事態が早く終息し，彼らが伸び伸びとはしゃげる環境になることを祈っています.

山口支部は，三密を避けながらも密に連携し，しっかりとした活動を進めていきたいと思っております．今後ともどうぞよろしくお願いいたします.

四 国 支 部

支部長（S52）末　澤　　等

四国支部は四国4県（徳島，高知，愛媛，香川）に居住または勤務する京土会会員で構成されています．近年の会員数は140名前後で推移しており，2021年6月現在，136名となっています.

四国支部では，例年5月後半の土曜日に支部総会を開催して，支部会員の懇親を深めていますが，2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため，総会をWebにて規模を縮小して開催しました.

例年，対面の支部総会では，まず，事務局から四国支部の活動状況が報告され，ご臨席頂いた先生から本学の近況をご紹介いただいた後に，懇親会に移り，世代を超えて懇親を深めます．最後に，参加者全員がお互いに肩を組み合って「琵琶湖周航の歌」を大合唱し，参加者の団結を固め，京土会四国支部の発展を祈念して万歳三唱を行っております.

ワクチン接種が進み，新型コロナウイルスの感染拡大が沈静化し，来年度は対面での総会が開催できることを祈るばかりです.

四国支部では，過去数年間の支部総会参加者数が40名を下回っていることから，今後も，引き続き活性化に取り組み，会員同士の懇親を深めるための場である支部総会を盛り上げていきたいと考えています.

四国支部会員の皆さまには支部総会に積極的に参加いただくなどのご支援とともに，四国外の皆さまには四国に勤務する機会等がございましたら，四国支部総会にご参加くださいますよう，宜しくお願いいたします.

北 九 州 支 部

幹事（H21, *H23*）福　田　尚　倫

北九州の土木プロジェクトを2つ報告する．1つは下関北九州道路．北九州と下関地方の都市一体化と両地域の交流・輸送力の増強をはかる目的で，小倉西地区と下関彦島間の関門海峡を約2.2kmの橋梁で連絡する計画である．九州・中国の両地方整備局，福岡・山口両県，北九州・下関両市で調査が進み，国の有識者会議で結論づける．2020年度，ルートは，市民の意見を聞き，小倉西から最短距離で結ぶ計画

に絞り，利便性を求めている．このため，北九州地域では早期事業化への要望が強くなっている．事業費は3,500億円と見込む．21年度は，海峡部の構造を検討し，都市計画・環境アセスメントの準備に入っていく．

2つ目は北九州空港滑走路延長計画である．現在の周防灘海上の滑走路2,500m（大阪航空局･九州地方整備局）に対し，大型貨物機の離着陸を可能とするため500m南に延長し，3,000mとするもので，空港敷地はすでに完成している．現在，国･県･市･苅田町の検討協議会で調査に入り，PI（パブリック・インボルブメント：公的に住民の意見を聞く活動）の実施準備を進めている．昼間は，現就航機の発着に配慮し，これから航空諸施設を整備，完成までに約4年有余が必要と見込まれる．

今年は新型コロナの影響で，例年7月に開催している当支部定例会（会員23名）は当面の間延期することとし，電話，メール，はがきにて支部会員各位の近況を確認しあった．夏の小倉祇園祭は太鼓の音が響かず，魚町の商店街も静かであった．

支部会員短信

藤井　崇弘（S34, *S36*）

オンライン社会．3月，京土・同期生とパソコンで顔を見て会話する．少数になった友への親しみが増す．4月，豊の国風景街道の理事を退き，若手に引き継いだ．小倉－中津－宇佐の歴史を探訪した12年間であった．囲碁は，井山・一力・芝野棋士らの熱戦譜を並べ，強くなろうと楽しんでいる．

垂水　國博（S49, *S51*）

コロナ禍の下，①会社は可もなく不可もなく1年間過ごせましたが，発注元の業況が悪いため今は苦戦中です．②同窓の住田氏にスーパードクターを紹介してもらい，昨年12月に「脊柱管狭窄症」の手術を行い，今は回復途上です．③巣ごもりの趣味として，ジン・ウォッカベースのカクテルを楽しんでいます．

垣迫　裕俊 支部長（S52）

大学教員生活も契約最終年の3年目となった．コロナ禍でZOOMやYOUTUBEなど，新しいスキルを覚えたのは個人的には想定外の収穫だった．来年度からは常勤職は引退することになりそう．4人の孫と遊ぶ時間を大事にしたい．

森川　真一（S54, *S56*）

3月に40年つとめた市役所を退職し，4月からは地元のコンサルタントに仕事を得て，週に4日働いています．15年前にやる気をだして水道と総合技術管理の技術士になっていたのが再就職に役立ちました．

66歳になって，体力知力のおとろえを自覚しながら，趣味のサイクリングとジョギングと山登りと読書と語学で，老化に抵抗しています．仕事も続けて正解でした．家族も自分もあいかわらず元気です．

コロナで，サイクリングで遠出（輪行）を自粛などはありますが，身近の素晴らしき低山を駆け回って，楽しんでいます．ただ，来年コロナが落ち着いても，自転車の遠出やマラソン大会に行く気力が老化して，そのまま素晴らしき身近の低山を駆け回っている気がしています．

吹中　範生（H4, *H6*）

昨年より国内のバイオマス発電関連業務に取組み中．寄る年波もあり，趣味の自転車は若干トーンダウンしています．大学生の二人の子供のうち，一人は来年の春卒業予定．子育てももうすぐ一段落です．

髙田　純一（H8, *H10*）

廃棄物発電プラントメーカーにて技術開発をしている．在宅勤務の影響かずいぶん体がなまっていたが，ジョギング・腕立て伏せを習慣化して体を痛めつけ，バキバキになった体は近所に新しくできた鍼灸院に通って修復することで何とか健康体を維持している．

真名子　一隆（H10, *H12*）

廃棄物発電プラントメーカーにて，台湾での焼却炉プロジェクトの実行業務を担当している．ここ1年半は台湾出張に行けておらず，コロナ終息を待ちわびる日々を過ごしている．

谷垣　信宏（H11, *H13*）

廃棄物発電プラントメーカーにて海外案件及び国内案件営業を担当しております．コロナ禍の為，海外出張は1年以上しておりませんが，国内はたまに飛び回っている状況です．子供も6年生になり，受験をするかどうかで悩んだり，公私とも比較的充実した日々を過ごしています．

津守　嘉彦（H15）

運動不足解消のため，通勤をバスから自転車に変更した．また，子供とサイクリングをするようになった．サイクリング時には子供の時に通った道などを教えている．最近，小さい文字が見づらく，眼鏡による補正が必要になってきた．

柏原　友（H15, *H17*）

2017年からドイツの廃棄物発電プラントメーカー（子会社）に出向しています．ロックダウンが解除され外出が可能となりましたので自然を楽しんでいます．

福田　尚倫（H21, *H23*）

廃棄物発電プラントメーカーにて，ごみ処理設備の設計，竣工後のアフターフォローの仕事に携わっている．北九州に来て早十年，健康を意識するようになり，ダイエットに励んでいる．

吉元　直子（H23, *H25*）

日鉄エンジニアリング㈱にてごみ処理プラントの技術開発に携わっています．秋頃に第二子を出産予定です．今年はオンライン英会話を始めましたが，なかなか成長している実感がありません．育休中に上達したいところですが，とりあえずはストレスに感じない範囲でなるべく途切れず勉強を続けることが目標です．

土谷　悠真（H31, *R3*）

廃棄物発電プラントメーカーに就職し，北九州で勤務しています．開発の業務に携わることになり，覚えることが多く忙しい毎日ですが，せっかく九州に来たのだから休みの日には観光名所を巡りたいと思っています．

福 岡 支 部

幹事（H14, *H16*）諸　橋　真　琴

福岡支部は，北九州を除く九州全域に在住・在勤の京土会会員によって構成されており，会員相互の親睦を深めております．支部では毎年6月頃に総会を開催しておりましたが，コロナウイルス感染拡大防止の観点から，大変残念ではありますが，昨年の中止に続き，今年は書面開催とする運びとなりました．次回総会は対面で開催できるよう新型コロナウイルスの早い終息を切に願うばかりです．

さて，九州の話題に移りますが，近年九州では毎年のように発生する災害により，様々なインフラにおいて甚大な被害を受けております．インフラ被災状況の一例として，JR九州の鉄道路線における主な被災・復旧状況について振り返らせていただきたいと思います．

平成28年4月の熊本地震の影響により不通となっていた豊肥本線については，令和2年8月の肥後大津～阿蘇間の運転再開により全線開通となりました．

また，平成29年7月の九州北部豪雨の影響で被災した久大本線については，平成30年7月の光岡～日田間の運転再開により全線開通となりましたが，日田彦山線の添田～日田間は現在も不通が続いており，バス高速輸送システム（BRT）での復旧が決定されました．

さらに，令和2年7月豪雨の影響による被災状況としましては，久大本線については，令和3年3月の豊後森～由布院間の運転再開をもって全線開通となったものの，肥薩線は八代～吉松間で今なお不通となっております．

このように，JR九州の鉄道インフラ状況としましては，近年の激甚化する災害のため，被災による一部区間の長期不通と復旧の繰り返しを余儀なくされています．

一方で，新しい鉄道路線の誕生としましては，西九州新幹線・武雄温泉～長崎間が2022年度秋頃の開業を予定しております．開業により，西九州地区の振興と発展に大きく寄与するのみならず，鹿児島ルートとの連携により九州全体の更なる浮揚に重要な役割を担っていく鉄道インフラになることを願っております．

最後になりましたが，京土会の皆さまの益々のご活躍と京土会の更なる発展をお祈り申し上げるとともに，支部会員の皆さまにおかれましては，今後とも支部活動へのご協力を宜しくお願いいたします．

椿 の 会 （ 女 性 支 部 ）

（H18, *H20*, **H28**）澤　田　茉　伊

京土会女性会員のネットワーク構築を目的に，2017年に発足しました．京土会の支援のもと，2019年からは支部として活動をしています．発足当初から，OG・OBの交流と現役学生のキャリア支援の場を提供すべく，桂キャンパスにて年一回の交流会を開催してきました．交流会では，卒業生によるキャリア構築や働き方に関する講演・座談会，また現役学生が進路や就職について相談できる茶話会を設けてきました．毎年の参加者は30名程度で多くはありませんが，ポジティブな感想をいただき，活動は着実に成長をしてきたように思います．

発足から4年目となる2020年度は，例年同様の対面での交流会を企画しておりましたが，コロナの感染状況が不透明なため，やむを得ず12月12日㈯午後にオンラインで開催をしました．オンライン交流会には，卒業生12名，学部生・大学院生8名が参加しました．三村衛会長に開会挨拶をいただき，続いて卒業生の自己紹介，ブレイクアウトルームを用いたフリーディスカッションを実施しました．各ルームの割り当てが4名程度と少人数であったため，会話がしやすく，学生からの積極的な質問・相談が多かったように思います．学生にとっては，コロナ禍で活動範囲が制限される中，様々な業界で活躍する卒業生の生の声が聴ける貴重な機会になりました．特に女性の卒業生と話す機会は初めてという学生もおり，新鮮だったようです．働く女性の置かれた環境の光も影も話すことにより，将来をより具体的にイメージするきっかけになったことと思います．

昨年度は，当たり前のように対面で行ってきたことがすべてオンラインとなり，直接会えないことへのフラストレーションが募る一年でした．そのため，「やっぱり対面が一番」といった意見を耳にすることが多かったように思います．一方で，現地に足を運ばなくともオンラインでかなりのことが可能であることがわかり，効率化を考える機会にもなりました．本交流会については，オンラインと相性が良く，対面が唯一の方法でないことが大きな発見でした．卒業生の多くは，京都から巣立ち，国内外の様々な場所で活躍をされています．また，仕事や家庭で中心的存在を担い，週末に交流会へ出かけることが難しいのが現実です．今回はオンライン実施とすることで，全国各地・海外から参加をしていただきました．子どもと一緒に画面に向かう方も複数いらっしゃいました．後日実施した開催形式に関するアンケート調査では，対面とオンラインのハイブリッド開催

や両方開催を希望する声が7割でした．今後はオンラインと対面のそれぞれの利点を取り入れながら，会員の交流の場を作っていきたいと思います．